

22 世紀八幡ルネッサンス運動 (略称：八幡ルネ) 企画作業チームニュース

ひるば

八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とるおいある生活と文化を享受するように努める。

■発 行：22 世紀八幡ルネッサンス運動
企画作業チーム ひろば編集部

■事 務 所：八幡市八幡高畑 10-76
TEL/FAX075-981-6505
090-3710-4842

■橋本連絡所：八幡市橋本興正 7-4 075-971-9488

■男山連絡所：八幡市男山指月1-12 080-3780-6140

■八幡連絡所：八幡市八幡土井135 竹島文化2F13号

■振 込 口 座：京都中央信用金庫八幡支店
普通 5243582
22 世紀八幡ルネッサンス運動

暑中お見舞い申し上げます

3 年前から始まった新型コロナウイルスは、未だ収束を見ておりません。ロシアがウクライナに侵略してから1 年半経ちましたが、戦争は激化する一方で、罪のない多くの人びとが殺される状況が続いております。

国内ではエネルギーや食糧への不安が高まり、かつてないほどの値上げラッシュが起きています。気候変動で地球環境が激悪化する今日、私たち人類に投げかけられた課題はあまりに大きい昨今です。

22 世紀八幡ルネッサンス運動は、苦難の末に今年3 月21 日、「遊びながらエコを考える3 世代交流イベント」を地域の人たちと共同で、市役所東側広場で実施しました。6 月11 日には4 団体共同主催で、齊加尚代監督の「教育と愛国」の上映会と講演会を生涯学習センターで開催しました。いずれの取り組みも協働活動に焦点が置かれ、今後の活動のあり方に光を与えるものとなっております。

八幡ルネの活動は近年伸び悩み状況ながら、野外の行事にも新しい参加者が生まれたり、趣向を凝らす動きも生まれております。再三、新しい風が吹くのではないかと言われており、いろんな場面での試策に努力しているところです。

皆様方におかれましては、ご健康に留意され、つつがなくお暮しいただけますようにお願い申し上げます、暑中のおいさつとさせていただきます。

八幡26 年 (2023 年) 7 月
22 世紀八幡ルネッサンス運動
呼びかけ人一同

《呼びかけ人》(敬称略)

伊藤 鍾治 田久保裕 福川 肅 平井 治之 杉山 恵美 石川 未来子 天野 みどり 石野 喜幸 伊藤 文彦 貝通 丸哲也 所埜 聖司 谷本 信義 立花 ヒロコ 高橋 千代子 神田 長子 土井 三郎 藤原 洋 日高 幹夫 出口 修 山口 克浩 武田 守治 堀江 正彦 宇治川 春子 中村 久雄 窪田 潤子 須藤 邦弘 沢田 三彦 猪飼 康夫 中野 玉美 松川 啓子 伊佐 錠治 中井 恵美子 福田 英正 佐藤 長作 竹萬 稔田 中和 杉山 隆 小川 和彦 鍋川 浩二 堀 渉 東 龍一 藤田 直子 吉川 せい子 小山 愛子 他 2 名
計 46 名

《お願い》
日頃の八幡ルネの活動や趣旨に賛同していただける「呼びかけ人」をお願いしております。

ご賛同いただいた方の行動は自由で、制限はありません。会費もございません。

私どもとしては、なるべく多くの方々からご賛同をいただきまして、活動への励みにしたいと思っております。もし、都合により辞退したいとの申し入れがあった場合には、すぐに辞退として取り扱いさせていただきます。

呼びかけ人になっていただいた方は、夏の「暑中見舞い」と冬の「新年あいさつ」にお名前を掲載させていただいております。「掲載しないでほしい」と望まれる方につきましては、お名前の掲載は控えさせていただきます。

呼びかけ人にご賛同いただける方は、事務所か近くの会員までご連絡をお願い申し上げます。

尻江地区の木津川河川堤防のドレーン工法について
A ーに聞いてみた

鍋川 浩二

これまで尻江・科手地区で工事したドレーン工法について、マニュアル通りしていないのではないかと、河川事務所に幾度も質問してきましたが、「点検しているから大丈夫だ」と言われてきました。今回はマニュアルの4 つについて、A ーに質問してみました。

ドレーン工法マニュアル(国土交通省)より

4 モニタリング4・1 効果確認のための計測機器によるモニタリング
ドレーン工の効果確認を行う場合のモニタリングの方法としては、多量の降雨時や出水時にドレーン内あるいは堤体内の水位を観測する方法が確実である。観測施設(水位観測孔)については施工時に設置するのが容易で経済的である。特にドレーン工内部の水位を観測する施設については、施工後の設置は極めて困難なので、施工時に設置する必要がある。4・2 巡視及び点検出水時や多量の降雨時には、ドレーン工の施工区間において①ドレーン工からの排水の状況(排水位置、排水量や排水の濁り)、②のり面を流下する表流水のドレーン工周辺での状況(集中傾向や吸い込み)、および、③ドレーン工の上方のり面からの浸出水の有無等を観察し、ドレーン工の効果や機能が確保されているかを確認する必要がある。また、出水後には堤体を起源とする土砂が堤脚水路等に堆積していないか、あるいは変状が発生していないか等を点検し、ドレーン

ン工に機能の低下等が生じているかを確認するとともに、平常時にも重点的に巡視を行い、機能の低下の徴候を速やかに把握することが重要である。

質問：マニュアルを読んで、観測施設は不要ですか？
A ー(Google Bard) の回答
はい、観測施設は必要です。テキストでは、ドレーン工の効果確認を行う場合のモニタリングの方法としては、多量の降雨時や出水時にドレーン内あるいは堤体内の水位を観測する方法が確実である、と述べられています。観測施設(水位観測孔)については施工時に設置するのが容易で経済的である、特に、ドレーン工内部の水位を観測する施設については、施工後の設置は極めて困難なので、施工時に設置する必要があると述べられています。

A ー(Microsoft Bing) の回答
観測施設は点検だけではなく、モニタリングにも必要です。この文章によると、ドレーン工の効果確認を行う場合のモニタリングの方法としては、多量の降雨時や出水時にドレーン内あるいは堤体内の水位を観測する方法が確実であると述べています。観測施設がなければ、水位の変化を正確に把握することができません。また、観測施設は施工時に設置するのが容易で経済的であり、施工後の設置は極めて困難であるとも述べています。したがって、観測施設は点検だけではなく、モニタリングにも必要であり、ドレーン工の機能を長期的に確保するためには設置することが望ましいと言えます。

観測設備がないのに、どのように外から点検しているのか？ 河川事務所の回答が不思議です。

「教育と愛国」の映画と講演会の集いに143名が参加！

実行委員の一員より

6月11日、八幡市立生涯学習センターにて、齊加尚代監督による『教育と愛国』の上映と同監督による講演会が開催されました。当日は、小雨模様の天候ながら、八幡市内はもとより京都府下、枚方市などから参加者が多数詰めかけました。

アンケートに応じて頂いた方の感想を何点かご紹介します。

「今の教育現場の状況がわかった。タモリさんが『新しい戦前』と言ったことが思い出された。」

「もと教育現場にいた教員ですが、政治が教育の内容に口だしすることには違和感を持っていました。気になっていた違和感をとても整理してもらいました。」この映画をつくられた齊加さんに敬意。また、企画された4団体にお礼します。」よく構成され、保守側の人間の意見ものせ、説得力がありました。政治家の質の劣化がよく伝わりました。「物事を冷静に考え、自分の考えをもつことのできる力をつけることが教育だと思う。歴史の真実を学ぶのは当たり前です。もつとたくさんの人にこの映画を観てほしいです。」戦争は教室から始まる、記者は戦争を始めることができる、ともに、名言だと思う。「戦争は絶対NO！政治家を見張っていききたい。」

22世紀八幡ルネッサンス運動の源流と言いつるもの

― 武部誠君死去30年に寄せて ―

伊藤 錚治

1993年7月7日、当時、男山中学校の2年生だった武部誠君は、八幡軸の民家（廃屋）の離れの鴨居で、首吊り状態で発見された。建物は1週間も経たないうちに解体された。それから30年が経っている。私は当時、中学生を持つ親で、あの時の不穏な状況を鮮明に覚えている。強い関心を持ちながら、浮足立った人々の姿勢に啞然とし、なんとかしなければと痛感した。

ささやかに協力者を集めて市民団体をつくり、会議を持ち、署名を集めた。学校長や教育委員会と話し合いもした。男山中学校の校区の隅々まで足を運び、署名を集めた。多くの人の声を聞いた。

みな荒れる男山中学校をなんとかしたいという想いではあったけれど、表立った協力はできないという人は極めて多く、市民の中には私の身辺について危惧する声も少なくなかった。

署名の数は1万名を超え、教育委員会に持って行った。一方、市の同和対策室は、会の発行している市民ニュースに「差別の可能性がある」とし、私は武部さんと一緒に呼ばれた。前後して部落解放同盟六区支部からも呼ばれ、同様の指摘を受けた。武部問題に寄せ

てくれた意見は40名を超えたが、そのすべてをニュースに記載したことに対し、そのうちの1件に差別の可能性があるということ、それを載せた編集者の姿勢に問題があるということだった。意見をそのまま載せることが大事だとした私の見解に対し、市や六区支部は「内容に問題がある」とした。

この件では、亡くなった当時の大野府会議員が「差別ではない」と述べていることを、人を介して知った。部落解放同盟の当時の有力者は私を八幡中央病院に呼んで、「あんた、えらいね」と誉めた。

市議会でもこの問題は取り上げられた。教育委員会の担当者が「抗議文」を持って家まで来て私に渡した。市議会議員一人ひとりに、この問題に対する見解を求めたが、意見を寄せた2人の議員のうち、ある議員は「各会派は申し合わせて出さないように求めている」と話した。実際、それ以外の議員からはなんの返答もなかった。個人からの文句や抗議を受けたことはなかった。公的な団体と市民感情の乖離はあまりにも大きかった。

誠君の死については、保護者の方々が警察に押しかけ真相を明かすように求めたが、自死の説明に尽きた。武部さんは誠君について「自殺するような子ではない」と、再三繰り返している。

署名活動の中では、現場周辺は特に口が重く、張り詰めた空気が

支配し、ただならぬ状況を呈していた。当時の男山中学校の男子生徒は親の問いに対し、「かん口令が敷かれていた」と話している。実際、物言えぬ雰囲気が漂っていた、相当のかん口令が敷かれていたようだ。

武部事件が発生してから、市内の他の中学校に転校したり、引越したりしたケースのほか、市外の私学へ転校した者、八幡をあきらめて市外に引越して行ったなどの顕著な例も出た。武部事件は全国新聞でも取り上げられ、記事に苦情を寄せた人の家に若い記者が呼ばれ、たまたま私もそれを目撃している。この事件をめぐっては様々な動きが生まれた。

30年経った今は、もっとも大切なことは当事者が真相を明らかにすることである。力なくとも、不自然な対応あるいは疑問に対し、関係者は最低でも答える義務を負っている。

この事件で私は、少しでも八幡を良くしていこうという強い想いが生まれた。そして、ひとつでもやれることはないかと始めたのがゴミ拾いだっただ。それは、22世紀八幡ルネッサンス運動の原点ないしは源流と言いつるものである。

武部さんの言葉

伊藤様、毎日、ルネッサンス運動をご苦労様です。三十年前、男山中学校の武部誠が亡くなって、

今思えば警察学校の先生たち、学校の先生たちと会っているのですが、その時は、誠は死体となっていたと思います。私も前の晩いろいろと捜しました。宇治川の誠が釣りに行っていた川も、夜に見に行きました。

警察で誠と対面した時の冷たさは、今でも忘れられません。早や三十年、あの子の仏さんに今でもジューズと花は欠かしたことはありません。今も三十年前も変わりありません。教育委員会の方、学校の先生は自分のことしか考えていません。八十歳まで生きて、当時、なぜ八幡に行って、なぜ日本石油の社員寮の管理人になったのかわかりません。

今、誠が生きていれば、どんな生活をしているかと思うとわかりません。八幡の同和地区の家で首を吊っていたそうですが、学校の先生方だれひとりとして捜してくれませんでした。警察で死体の傍にいたのは、若い警察官だけでした。

いろいろ思い出しても、三十年という時間がかかっています。今、昔の日本石油の寮のあとにマンションが建っていて、随分と変わっていることでしょう。誠は帰ってくることはありません。年が経っているのに、思い出すものなかなか叶いません。

伊藤さんもルネッサンス運動をがんばってください。

武部輝雄